



業界企業

ウィルオブ・ワークの設立財団が、夢を追う派遣社員の活動支援援助の公募開始

総合人材サービスを提供するウィルオブ・ワーク（東京都新宿区、告野崇代表取締役社長）が昨年度設立したWILLOF財団（東京都新宿区、告野崇代表理事）は活動資金援助として第二期の公募を9月1日から開始する。

同財団は、夢や目標の実現を目指す派遣社員の挑戦する意志を支援すること、同社のビジョンである「Chance-Making Company」の実現と、誰もが挑戦できるポジティブな社会を実現することを目的に設立された。夢や目標を叶えられる多様な働き方として派遣社員を選択したスポーツ・芸能・芸術分野で挑戦し続ける派遣社員に活動資金を1名当たり最大100万円支援する。

同社が昨年9月に実施した夢を追いかける派遣社員を対象とした調査では目指す夢はスポーツ・芸能分野、クリエイティブ分野が多く、派遣社員を選んだ理由の半数が「夢と仕事の両立ができるから」と回答。夢の実現のために派遣という働き方を選択したことをポジティブに捉えている人が多かった。また、対象者の8割が「夢への活動があったら応募したい」



業界企業

山梨のヒューコムエンジニアリンググループ、子供向けプログラミングスクールに着手

と回答しており、夢を追いつけることと働くことの両立に課題があることも明らかとなった。

同財団の告野理事は「派遣社員として働きながら夢や目標に挑戦し続ける方々の『チャンスメイク』をお手伝いしたいという想い

山梨で人材サービスを展開するヒューコムエンジニアリング（山梨県中巨摩郡、出井智将代表取締役）はグループ会社のピコピコピーコにおいて、子供向けパソコンスクールを運営するアントレキッズ（東京都渋谷区、代表取締役 役西田祥）のフランチャイジーとして、2022年9月に小中学生を対象としたプログラミング教室を県下の昭和町に開校する。

同校ではプログラミングや映像クリエイションなどの「プログラミング教育」を中心としたスキルを学ぶカリキュラムが提供される。また、教室では模擬の起業体験や会社運営、アントレキッズ内での仮想通貨を使用した資産運用など、プログラミング教育以外のカリキュラム提供も行っている。

同社広報は「子供たちが想像したことを自信をもって表現できるようになってほしい」とコメントした。

Jinzai Business

Hotline (ホットライン) News

本誌にホットラインで届けられたニュース等を中心に紹介！

行政

厚生省「雇用保険制度研究会」が、法的・制度的な観点から雇用保険制度の在り方を検討



厚生労働省職業安定局は令和4年7月25日、今後の雇用保険制度の在り方を検討する第3回「雇用保険制度研究会」を東京都内で開催した。

同会は東京大学大学院法学政治学研究科教授の山川隆一氏を座長とする学識経験者からなる研究会。コロナ禍が雇用に影響を与え



る中、雇用保険制度について様々な課題が指摘されていることを受け、雇用保険の給付と負担の在り方などについて、学識経験者を参集し、現状の分析や論点整理を行い、雇用保険制度の在り方を検討する。

同研究会では5つの論点が議論の対象。①基本手当の効果検証と

その運用も含めた在り方②教育訓練給付、求職者支援制度の効果検証とその在り方③非正規雇用労働者に対する支援策の在り方④育児休業給付とその財源の在り方⑤その他（関連資料より）。

同研究会のメンバーは、山川座長のほか、酒井正（法政大学経済学部教授）、佐々木勝（大阪大学大学院経済学研究科教授）、土岐将仁（岡山大学大学院社会文化科学研究科（法学系）准教授）、水島郁子（大阪大学理事・副学長）、渡邊絹子（筑波大学ビジネスサイエンス系准教授）。

第1回（令和4年5月30日）と第2回（令和4年6月20日）の研究会では、主に雇用保険制度の概要や基本手当（効果的・効率的な再就職支援の在り方）について議論。出席メンバーの間で活発な意見交換が繰り返された。続く、7月25日には第3回が開催され、「求職者支援制度」、「教育訓練給付」、「休業支援金・給付金」について議論が交わされた。

同研究会では8月以降も学識経験者から論点に関する意見交換を実施していく予定だ。